

受験番号	
------	--

令和5年度学校推薦型選抜 小論文課題

[設問]

次の文章を読んで「科学的に考える」ことについて、あなたの意見を600字以内で述べなさい。

伝統的に日本では「三た」というキーワードで治療の評価をする場合があります。これは「使った、治った、だから効いた」という考え方です。もちろん、この考え方は論理的には正しくありません。なぜなら、使わなくても治ったかもしれないという可能性については吟味されておらず、したがって、効いたかどうかは実は闇の中なのです。三た論法を容認してしまうと、「あたしが昨日おじいさんの位牌にお祈りしたから息子の病気が治った」とか、「あの人はベッドが北向きだから治った」とか、「看護師さんが美人だから治った」（これは実際、あるかも）とか、「今日は阪神タイガースの帽子をかぶっていたから治った」という話もみな同じ論理で正当化されてしまいます。だから、ある治療をやった、治った、だから治療が効いた、と考えるのは、誰にでもわかる素朴な理由で間違っているのです。

ある治療法を使ったから治ったという因果関係を見いだそうとするならば、「使わなかったらどうなるの？」という問いにも答えられなければいけません。そこで、私たちはしばしばこの問題を解くために、「比較試験」というものを行います。他の条件をすべて等しくして(あるいは等しくするよう努力して)、使った場合と、使わなかった場合を比較するのです。そうすれば、使わなかった場合に比べて、使ったら効くのか、そして「どのくらい」効くのか程度まで調べることができるのです。

【岩田健太郎『感染症は実在しない』より抜粋】